

3/9 [土] 13:30~

ふるさとぴあプラザ

令和5年度 春季歴史講座

善正寺の歴史と寺宝

主催：松原市教育委員会・(一財)松原市文化情報振興事業団



複製写真
(精三寺所蔵)

川端 泰幸氏(大谷大学)
ほか元興寺文化財研究所研究員2人

企画・実施：松原市教育委員会

書名	善正寺の古文書と聖教・典籍
書名かな	ぜんしょうじのこもんじよとしうぎょう・てんせき
副署名	令和5年度春季歴史講座「善正寺の歴史と寺宝」当日配布資料
編著者名	服部 光真(はつとり みつまさ)
編集機関	-
発行機関	松原市教育委員会 一般財団法人松原市文化情報振興事業団
発行年月日	2024年3月9日
郵便番号	580-8501 580-0016
電話番号	072-334-1550 072-336-6800
住所	大阪府松原市阿保1-1-1 大阪府松原市上田7-11-19
備考	松原市民ふるさとぴあプラザで令和6年(2024)3月9日に実施した「令和5年度春季歴史講座」の配布資料である。 本講座は松原市教育委員会と一般財団法人松原市文化情報振興事業団が共同で開催したものである。

PDF ファイル制作日：2024年3月13日

令和5年度春季歴史講座「善正寺の歴史と寺宝」

善正寺の古文書と聖教・典籍

服部光真（元興寺文化財研究所）

はじめに

・これまで知られていた善正寺の古文書

教如書状が紹介された^{*}ほか、ほとんど知られていない。

*西田孝司「善正寺蔵の教如ゆかりの品々」（『松原歴史ウォーク』191）

由緒は明治31年（1898）編纂の寺誌『長谷山古今言行録』に基づき説明される。

その他は、松原市史編さん室が346点の古文書を調査し目録化していたが、未紹介。

・今回の総合調査の成果

昭和期の第2次世界大戦終戦までの資料を対象とする悉皆（しつかい）調査。

⇒教如などの古い時代に限らず、残された資料の全体を調査し、記録する。

古文書…1,095点（江戸時代603点、明治時代以降492点）

聖教・典籍…647点（江戸時代230点、明治時代以降417点）

⇒一大資料群の出現。

お寺の歴史のみならず、地域の歴史を伝える重要史料として再評価。

1、善正寺の由緒と歴史

・『長谷山古今言行録』が語る善正寺の歴史

善正寺は、もともと摂津国平野郷にあった金剛乗院という真言宗寺院で、根来寺に属していた。蓮如が当国に巡錫した際に、三好順慶の子了道が蓮如に帰依し、この寺を河内国丹北郡城蓮寺村に移し、寺号を淨蓮寺と改めた。

その後、文禄3年（1594）には長束東家を奉行とする太閤検地で城蓮寺、砂村、我堂村の除地が認められ、元和2年（1616）にはこの除地の一つ砂村に移され、「砂御坊」と称された。この間、慶長年間（1596～1615）に住持順欽が教如の巡錫の際に帰依し、教如から寺号を与えられて善正寺と名乗っていたという。我堂村の現在地に善正寺が移されたのは寛永18年（1641）のことであったという。

・草創期に関わる伝承はどこまで遡るか

宝永4年（1707）木鐸化牒叙

つつしみて河州丹北郡我堂善正寺の権輿をかんがうるに曰く、往昔摂津州平野県に一区仏盧あり、金剛乗院と名づく（根来に属す）。専ら真言密乗を唱うるの宗派なり。

しかるにその頃わが宗 大上人信楽院蓮如、畿内を巡化したまう。その時の僧順可、淨土真宗の教風に靡き、改宗して真宗に歸し、淨蓮寺と号す。則ち

法祖鸞聖人御真翰十字名号を譲り与え、念佛沛湧の道場と成すなり。後に故ありて河

内丹北郡天見郷に移り、砂御堂と号して寒暑一百有余年を送る。慶長初年 前大僧正教如上人また畿邦を遊導し、芳躅をわが寺に休めたまうこと三十余日なり。則ち当寺を 御坊の列に任せしめ、賞褒として 先住大僧正顕如上人真影・御累世善智謙御名ならびに御書一通御染筆を授与す。また善正寺に号を改む。その後また故あり、寺宇を今の我堂に移してよりこのかた既に八十有余歳なり。(後略)

→近世段階から、親鸞の十字名号、顕如上人像、本願寺歴代連坐銘、教如書状などの什宝を由緒に組み込み、寺の由緒を主張することで、建造物や什物の修造のための勧募などが行われていた。

⇒平野郷→城蓮寺→天美郷（砂村）→我堂という変遷の骨格は 18 世紀初頭までに成立。

『長谷山古今言行録』は近代の編纂物とはいえ、江戸時代までに形成されていた善正寺の由緒=歴史叙述の伝統を踏まえて作成された。

・草創期善正寺の実像

一次史料によって善正寺の確立過程を探ると以下の通りである。

- ・文禄 2 年(1593) 顕如上人像下付。「天見郷城蓮寺村興正寺門徒端坊下／願主积順欽」
(同裏書)。* 善正寺の寺号は無し。
- ・慶長 5 年(1600) 親鸞聖人像下付。「天見郷成蓮寺村善正寺」「願主积順欽」(同裏書)。
- ・寛永 7 年(1630) 御伝鈔免許。「スナ／善正寺／孝順」(御印書)。
- ・寛永 13 年(1636) 飛檐出仕免許。「天見郷砂村／善正寺／孝順」(御印書)。
- ・寛永 13 年(1636) 聖徳太子・七高僧図下付。「天見郷砂村善正寺」「願主积敬順」(同裏書)。
- ・寛永 15 年(1638) 宗門改帳に「我堂村善正寺」(正徳元年「乍恐口上書を以奉願上候」)。
- ・寛文 12 年(1672) 孝順の後住に放逸僧が入り、逐電(寛文 12 年「乍恐言上」)
飛檐継目出仕免許。「我堂村善正寺／了順」(御印書)。
- ・この頃 門跡への白銀進上につき、西我堂村、東我堂村、城蓮寺村、油上村、砂村、
善正寺の門徒中に謝意が伝えられる(御印書)。
- ・延宝 5 年(1677) 油上村に末寺施福寺が建立される(同年「御添状之写」)。
- ・延宝 7 年(1679) 砂村に安楽寺が建立される(同年「木仏并寺号御免状御之写」)。
- ・元禄 7 年(1694) 飛檐継目出仕免許。我堂村善正寺／教雅(御印書)。
- ・元禄 15 年(1702) 善正寺南窓坊が 5 か村の門徒中に本堂修復の助成を請う(道場修造
につき助成要請状)。
- ・宝永元年(一七〇四) 檐継目出仕免許。我堂村／善正寺了空(御印書)。

⇒一次史料の表記を見る限り城蓮寺村→砂村→我堂村の変遷は跡付けられる。

ただし寛永 15 年(1638) までには我堂の現在地に移っていたとみられ、一部修正される。

→基本資料である『長谷山古今言行録』を一次史料により相対化していくことも必要。

江戸時代前期には我堂、油上、城蓮寺、砂など天美の中心寺院。「中山」(中本山格)寺院。

寛文 12 年(1672) の放逸僧の入寺で寺史が断絶。17 世紀末以降の史料が残される結果に。

2、善正寺文書の魅力

お寺の歴史が詳しく判明するだけではなく、地域の歴史を伝える重要な史料。

・乍恐以書付御断申上候（地震につき本堂・庫裏・長屋門破損届）

乍恐以書付御断申上候

一小出民部殿御知行所河州丹北郡我堂村善正寺本堂[#]庫裏・長屋門[#]、当月四日之地震⁼

破損仕候⁼付、書付差申候、

一本堂 梁行七間
一庫裏 衍行七間
外⁼一間半
御拝附

但瓦葺

右者西之方[#]六尺計ゆかミ候⁼付、瓦取引立置申度候、

一庫裏 梁行三間
一長屋門 衍行六間半
外⁼一間半
御拝附

但瓦葺

一長屋門 衍行四間
外⁼一間半
御拝附

但瓦葺

右式[#]所同断

右之通相違無御座候、以上

東本願寺下我堂村

宝永四年 [#] 十月十二日	長谷山	善正寺
	同村庄屋	甚 助
	同村庄屋	作左衛門
	同村年寄	文左衛門
	同村年寄	伝右衛門

御奉行様

⇒宝永大地震（南海トラフ地震）に被害状況を報告。

この地域における地震被害の状況を伝える貴重な地震史料。

防災のための歴史地震研究にとっての貴重なデータに。

・過去牒に記された年代記

住職智空によって、嘉永2年（1849）～明治25年（1892）の間、毎年の年末に、その年に起きた善正寺内外の事件、世相が記録された。

（嘉永五年・1852）

当四月十日、北条相模守死去、号顕光院、五月ヨリ旱[#]、七月二十一日大風雨、当村家土五軒程倒[#]、希大風也、九月九日、北条悦治良御巡見之処延引⁼相也、○北条相模守御逝

去付、五月廿四日より七月十五日迄御停止、穩便五十日之間也、此時山上猪右衛門寺社奉行付、鐘・太鼓勤行付之鳴物之儀相尋候処、鐘・太鼓等朝夕勤行付ハ不苦敷例年定式勤事、法話も当住之法話ハ不苦敷、余人を頼法話、又何時^ニ面も宜敷勤事を御停止中被致事相成不申候^ト山上被申候、

(嘉永六年・1853)

当三月二十八日、北条悦治良御巡見、当寺御中飯、七月中旬西方ホフキ星出、秋東都西墨利伽船來^リ、大名衆^{井ニ}世間大サワカシキ、夏大旱、五月十八日雨フリ夫ヨリ冬ニ至ルマテ田地水ナシ、古今希ナル旱也、夏將軍遷化、金六十七両九分也、○十二月二十日夜、本堂^ノ盜賊入^リ仮具十三品盗取公儀^ノ届、狹山^ノ届申候、○公方様御薨去付、七月廿七日右穩便之廻状來^リ、御當職致無限、朝夕勤行付鐘・太鼓ハ常之通^リ相用候事、

上=○下 ホフキ星^ノ形如上長二尺程、

(嘉永七年／安政元年・1854)

当三月天子焼失、六月二十七日夜賊難、盤一ツ・小香炉一^ヲ盜^レ、公儀不届、六月十四日夜七^ヲ時大地震、同十五日朝六^ヲ半時中地震、夫ヨリ日々少々宛地震閏七月マテ、九月十八日ヲロシヤ船堺浦^ヲ來^リ、近辺大名衆浜辺^ヲ出陳、十月三日、ヲロシヤ船退船致^レ、十一月四日朝五^ヲ時大地震、同五日昼七^ヲ半時、亦夜五^ヲ時大地震、此時本堂致破損、津波ニテ大坂町人凡六百人余溺死、十一月二十七日安政改元、諸国大豊年、

(安政2年(1855)3月17日条)

芝村安楽寺、阿保村^ニ即死致^シ、三月より瘡瘍大^ニ流行、

(慶応2年(1866)8月7日条)

大風ニテ民家大木大倒当村五軒家倒、米・綿大不作、米大高直一石付壱匁四百九十目、綿一斤二十三匁、金壱両百四十五匁、

(同年5月条)

大坂御城堀ニテ怪魚死浮^フ、形鱗^ノ如クシテ四足アリ鱗アリ口ハ尖ノロノ如^シ、コレ城ノ主^ト相見^ズ、コレ此城滅ス前表ナヘシ

⇒地域における地震・疫病・大風などの被害状況、異国船来航と「ほうき星」出現という世相、物価、怪異・噂など。時代の変革期を生きた住職によるほぼリアルタイムの記録。

おわりに

他にも、前ヶ池埋め立て以前の様子が写された古写真、江戸時代の住職の書写による浄土真宗の聖教類、その他の仏教書、戦前の住職所持の生け花・茶道などの書籍、教科書など。

⇒善正寺の古文書と聖教典籍は、地域の歴史文化の重要なアーカイブ。地域史料の一大文庫。

⇒今年度末刊行の報告書ではすべてを目録化し、主要資料145点を翻刻。

この成果が、地域史研究、地域文化の継承・創造に活用されることが期待される。